

## 地域健康講座再開について

01

新型コロナウイルスの影響で2年あまり中止していた、イオン八事ショッピングセンター4階G・Gイベントコーナーでの地域健康講座を6月より再開しました。



6月は「治すより防ぐ」健診のススメと題し、予防医療センター長である田嶋副院長が講演を行いました。健康寿命(日常生活が制限されずに活動できる期間)と平均寿命との差である不健康期間を短縮するために気を付けるべき、心疾患、骨粗鬆症や各部位のがんについて、罹患率等をデータや図表を用いてお示しました。また、大腸CTで撮影できるポリープの3D画像やCTのイメージ映像をご覧いただき検査の内容についても理解を深めていただきました。

当院では特定健診や名古屋市委託のがん検診、人間ドック等のほか、採血だけで4種の消化器がんの診断ができるマイクロアレイ血液検査も取り扱っています。病気を予防するために健康診断をぜひご利用ください。



8月は「健康寿命延伸の新しい考え方「フレイル」(高齢による衰弱)について」石原内科診療科部長が講演を行いました。年をとって心身の活力(筋力、認知機能、社会とのつながりなど)が低下した状態を「フレイル」と言います。多くの人が健康な状態からフレイルの段階を経て、要介護状態になると考えられています。フレイルが高齢者の生活に与える影響は大きく、健康寿命を短くしてしまいます。更にこの数年はコロナ禍が加わり、外出が減るなど、フレイルを加速するような状態が続いています。幸い、フレイルは回復させることが可能であり、日々の生活・行動に気を付けることで、進行の改善・回復がはかれます。

そこで今回は、参加された方々に簡単な方法でご自身がフレイルの状態にあるか否かを自己評価していただくとともに、対応方法について具体的に提示し、今後に役立てていただけるような内容としました。講義形式ではなく会場参加型としたことで、より理解を深めていただけたかと考えております。今後も地域の皆さんに役立つ内容で企画していきますので、気軽に参加してください。

講座に参加された方の中には、講師の話に熱心に耳を傾けている方、講演後に質問される方もいらっしゃり、皆様の健康意識の高さが伺えました。

また、このような講座は、地域の皆様と直接お会いできる機会が減っている中で、大変貴重であると考えています。今後は、下記のテーマを予定しています。ご都合がございましたら、ぜひ参加をよろしくお願いいたします。

日時	テーマ	講師
10月25日(火)14時00分～	「あなたの骨は本当に健康ですか？」 ～リエゾンチームと骨粗鬆症について学びましょう～	青木 良記 整形外科部長 兼 救急部長 SOLT(聖霊病院骨粗鬆症リエゾンチーム)
12月13日(火)13時30分～	「皮膚科医が教えるスキンケア」	加藤 香澄 医長、長村 美佳 医師

## 第40回大腿骨近位部骨折連携会の開催について

02



6月29日(水)に第40回目の大腿骨近位部骨折連携会をオンラインで開催しました。

患者さんの病状について転院先の上飯田リハビリテーション病院様と共同して事例発表を行ったほか、ミニレクチャーの解説も行いました。連携病院様と直接お会いして事例検討ができないのは残念ですが、オンラインでは移動時間を考慮せず、多忙なスタッフも参加できるという強みもあります。今後とも多施設との情報交換により、さらなる連携を深めていきたいと思えます。次回は11月2日(水)に開催を予定しています。

整形外科診療科部長 鞆飼 淳一 医師

## 新任医師ご紹介

令和4年8月に渡邊医師、9月に中川医師を迎えました。力を合わせて地域医療に貢献していきます。

放射線科  
渡邊 安曇

医長  
専門領域:放射線診断学



内科  
中川 雅文

専門領域:消化器一般



## ★看護師・看護補助・臨床検査技師募集中★

今まで培ったキャリアを当院で活かしませんか？優しさと思いやりを大切に患者さん一人ひとりに寄り添う看護・診療を一緒に行いましょう！まずはお気軽にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先  
人事課 水野・山本(代表052-832-1181)



お問い合わせ先  
QRコード



撮影場所:岐阜県土岐市曾木公園 写真提供:用度課課長 幾田 和男



## ごあいさつ

記録的に暑かった夏も過ぎ、過ごしやすい季節になりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。新型コロナの第7波では、感染拡大に伴い、発熱外来への電話がつながりにくいなど、患者様にはご迷惑をおかけしました。少し感染も落ち着いてきましたが、病院としては、継続した感染対策が必要であると感じています。

さて、今回の聖風は産婦人科の特集です。聖霊病院は以前からお産で有名ですが、現在では、女性のライフサイクルに関連する様々な状態に対して、医師、助産師を中心に多職種が協力して支援しています。

## HOT NEWS

## 新型コロナワクチン4回目の接種を実施しています。

新型コロナウイルスが日本で蔓延し始めて3年が経過しようとしています。今私たちは第7波を経験し、もはや次の波が予測されています。一体こんなにもコロナの波が来るとは誰が予想できたでしょうか。

そんなコロナの収束の見通しが無い中、ワクチンの接種回数も4回目を迎えました。今回は高齢者や医療従事者などが対象とされています。前回のワクチン接種から5か月が経過した高齢者等から始まりましたが、第7波の感染の勢いが高まるにつれ当院にワクチン接種の予約をされる方が増えました。

各病院には供給されるワクチン量が予め決められていますので、それに従って予約受付数も限度があります。せっかく当院で接種しようとしたのに予約できなかった方には大変申し訳ありませんが、接種は継続して行っていくのでホームページや窓口でご確認ください。

10月からはオミクロン株にも対応する2価ワクチンの接種を開始します。新型コロナウイルスを巡っては政策が流動的な部分もありますが、当院は臨機応変に対応し地域の感染対策に貢献できるよう取り組んでいきます。



総務課 課長補佐 福田 英夫

## 思春期から更年期さらに老年期まで

女性の一生は、思春期、性成熟期、更年期、老年期という4つのライフステージに大別されます。産婦人科は、そんな女性のライフステージに合わせてトータルで診療する診療科です。

- 思春期  
最近では初潮開始の低年齢化に伴い、早くから月経の悩みを抱えている思春期のお子さんが増えているようです。当院では現在、女性医師が2名在籍しており、思春期のお子さんにも相談しやすい体制が整っております。
- 性成熟期  
この時期のメインイベントは出産ですが、女性ホルモンが活発なこの時期ならではの疾患として、子宮筋腫や子宮内膜症が挙げられます。当院では、薬物療法から手術療法まで患者様に合った治療方法を提案しております。
- 更年期  
閉経前後の5年間、45～55歳くらいの時期は、女性ホルモンの急激な減少による身体の変化ばかりでなく、家族をはじめ、周囲環境の変化が激しい時期と重なります。この時期の体調不良を一般的に更年期障害と呼びますが、多種多様な症状がみられます。当院は、患者様との対話を大切に、1人1人の症状にあわせたホルモン剤や漢方薬を中心とする薬物療法に加え、よき相談相手として患者様の新しいステージがより良いものになるお手伝いをしたいと考えております。
- 老年期  
人生百年時代となり、70代80代でも元気に活動されている女性の方々が増えてまいりました。そんな中、萎縮性膣炎や骨盤臓器脱で悩まれている方もいらっしゃいます。骨盤臓器脱では、ペッサリーというリングを装着することで症状が改善される場合がございます。お気軽にご相談ください。

産婦人科医長 荒木 雅子 医師

## 妊産婦のサポートについて

産後うつと母体自殺や児童虐待との関連が明らかになり、周産期メンタルヘルスケアが急務となって2017年度から名古屋市でも産後2週間と1か月の2回の受診機会(産婦健診)が助成されるようになりました。

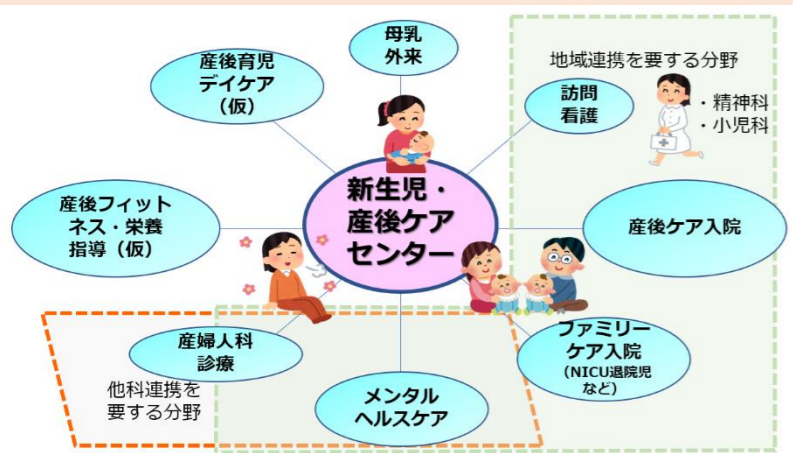
それに伴い、当院でも助産師が中心となって産後うつのスクリーニングを行うことで、育児のみならず産後の身体的・精神的な変化の不安に寄り添い、中長期的な支援を要する妊産婦さんには母乳外来に受診していただき、サポートを継続しています。特に不安の強い方の場合、多職種で支援することが産後うつの予防につながることも報告されており、メンタルの不調が長引く場合は臨床心理士にカウンセリングを依頼しています。

さらには妊娠中から体調や産後の支援状況などを丁寧に聴き取り、また地域母子保健センターとも連携して、ご家族の思いに寄り添った個々の育児を提案し、産後の不安を軽減できるように努めています。

また、当院では令和5年度より「新生児・産後ケアセンター」の設立を予定しています。聖霊病院ならではのサポートができるよう、今現在スタッフと色々なアイデアを出し合っております(左下図、右下写真)。例えば、多胎や早産といった低出生体重で出生した児などの特性を理解したNICUスタッフがいるため、他施設NICU退院児の育児支援などは安心して任せられるのも当院の強みです。

また当院の地域連携力を生かし、近隣の医療機関や母子保健センターと連携を構築することで、多職種多施設

で地域ぐるみの育児支援モデルを目指したいと考えております。ぜひ多くの方に関心を持っていただけたら幸いです。



図：新生児・産後ケアセンター (第1構想)



写真：発案ノート

産婦人科医長 小林 知子 医師

## 当院での無痛分娩について



分娩室

聖霊病院では、しばらくの間、無痛分娩を行ってきませんでしたが、今から5年前に、無痛分娩の体制を新しく整えることになりました。ある妊婦さんから「聖霊病院では無痛分娩は出来ないのですか？」と尋ねられたことがきっかけです。その方は、第一子を当院で自然分娩にて出産され、第二子もできれば当院で出産したいという希望をお持ちでした。無痛分娩での出産という願いをかなえようという我々スタッフの思いが形となり、2017年の吉日、その方は新体制での無痛分娩第一号となる赤ちゃんを無事に出産されたのでした。以後、幸い大きなトラブルは起きずに、今日に至っております。

当院で行っている無痛分娩は、硬膜外麻酔併用で原則として計画分娩です。計画分娩とは、あらかじめ出産日を決めて、その日に陣痛促進剤を使用して、人工的に陣痛を起こし、出産を促す方法です。経産婦のみ対象とする病院もありますが、当院では初産婦にも対応しております。麻酔は、安全を第一に考え、麻酔科医師が硬膜外麻酔穿刺を行っております。麻酔科医師が対応できる時間帯で行うため、無痛分娩を行える曜日と時間帯に制約はあります。

2021年度は10名の方が無痛分娩で出産されました。最近では、陣痛促進剤の使用を減らし、できるだけ自然に近い形でお産ができるような出産日の決定を目指しています。

産婦人科医長 荒木 雅子 医師

## 赤ちゃんとの生活をサポート



当院では、長年に渡ってNICU(新生児集中治療室)で治療を必要とする赤ちゃん、そのご家族へのケアを行ってききました。また、近隣のNICU施設とも連携し、急性期の治療を終えた赤ちゃんの転院を受け入れています。赤ちゃんの体重が大きくなるまでの期間や、赤ちゃんの呼吸が安定するまでの期間、ご家族と一緒に沐浴の練習をしたり、授乳の練習をしたりして過ごしてもらいます。

当病棟の強みは、退院後の生活を想定して朝から夕方まで赤ちゃんのご家族のみが個室で過ごせる「ロング面会」や、産科病棟と連携した宿泊型の「母児同室」が状況に合わせて行えることです。退院が近づいたタイミングでロング面会などを行い、1日の生活リズムの中で赤ちゃんの欲求に合わせたお世話に慣れてもらうようにしています。ロング面会を行う部屋は、おうちのリビングを想定して、ソファや畳マット、ベビーベッドを置き、自由に過ごしてもらえるようにしています。



また、自宅でも酸素投与が必要な事例などは、当院地域連携センターを通じて訪問看護ステーションと情報共有を行い、在宅医療をスムーズに受けられるよう支援しています。退院後も状況に応じて、訪問看護にNICUスタッフが同行したり、小児科外来の看護師ともタイムリーに情報交換したりしています。

このように、各部門・部署とのつながりが強く、ご家族の状況に合わせた臨機応変な支援方法を考えることができるのも、当病棟の強みの1つです。

妊娠期から助産師・医師が中心となり、協働してご家族を支え、出産してからも切れ目なく多方面から支援を続けることができるのが自慢です。

今年度に入ってから、母体の新型コロナウイルス感染症のため帝王切開で出生し、隔離が必要な赤ちゃんの入院が急増しています。写真だけではなく、どうにか赤ちゃんの毎日の様子をご家族に届けられないかとスタッフでアイデアを出し合い、ZOOM面会を始めました。ZOOM画面上でのご家族の笑顔や歓声が、スタッフの励みになっています。これからも、赤ちゃんのご家族の健やかな生活のお手伝いができるよう、創意工夫を重ねていきたいと思っております。

NICU 主任 助産師 堀内 遥子